

平成30年度 学校自己評価システムシート (県立宮代高等学校)

目指す学校像	生徒一人ひとりの「よさ」を伸ばし、次代をたくましく生き抜くための学力と規範意識を身に付けた人間を育てる
--------	---

重点目標	1 生徒一人ひとりに見合った学習環境を提供し、基礎学力を確実に向上させ、自ら考え、判断し、表現する力につなげる 2 生徒一人ひとりの資質を把握し、個々に目標・目的を持たせ、規律ある学校生活を送らせる 3 積極的な広報活動を行うとともに、保護者・地域・関係諸機関との連携を強化する
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

学 校 自 己 評 価						
年 度 目 標				年 度 評 価 (月 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度
1	<ul style="list-style-type: none"> 朝学習の導入は順調で生徒にも浸透したが、モチベーションを保つ工夫改善を行う必要がある。 成績不振科目数は、指名補習等の取組により1、2年次において減少している。欠点を取らせない丁寧な指導を継続する。 生徒手帳と教育計画を一体化した手帳を活用し、学習習慣や学習意欲を向上させ、家庭学習の定着につなげる。 高大接続改革を見据えた授業改善を行う必要がある。授業を通して生徒の主体性を引き出し、思考力、判断力、表現力を育成する。 	基礎学力向上のための取組を継続し、学習習慣や学習意欲を向上させ、自ら考え、判断し、表現する力を身に付けさせる。	<ul style="list-style-type: none"> ①全学年で毎日基礎学力向上のテキストを用いて自学自習の朝学習を10分間実施し、学習習慣を確立する。年12回の確認テスト・振り返りを行う。 ②教務部を中心に年間を通してこれまでの取組(勉強マラソン、部活動勉強会、学習サポーターによる個別支援、授業への取組3割評価、指名補習)を継続し、改善・充実を図る。 ③学年が進路行事等を通して宮高手帳を活用する機会を増やす。 ④「未来を拓く『学び』プロジェクト」研究開発校に応募し、授業改善を推進し、授業研究に組織的に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒が集中して取り組むことができたか。家庭学習時間が増えたか。 ②各学期の成績不振者数が、前年度の2割減以上であったか。また、勉強マラソンへの参加率が前年度を上回ることはできたか。 ③宮高手帳を有効活用できたか。 ④主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善がなされているか。授業アンケートで授業の理解度が8割以上。授業がわかりやすいと回答する生徒が8割以上。 		
2	<ul style="list-style-type: none"> これまでの丁寧な生徒指導により、落ち着いた学校生活が送れている。 遅刻者数の減少が課題である。遅刻者、欠席者は2学期から増加する傾向にある。 校内の生徒指導のチーム力を向上させ、個々の生徒の特性に応じた指導を行う必要がある。 教育相談体制を充実させることとあわせて保護者との相談や不登校の未然防止に力を入れる。 部活動、生徒会の活動を通して生徒の自己肯定感・自己有用感が高められている。部活動、生徒会で活躍している生徒を核にして学校の活性化を図っていく。 希望の進路実現とともに生徒に身に付けた知識や技能をこれからの人生や社会に生かそうとする視野をもたせる必要がある。 	校内の生徒指導・教育相談・進路指導のチーム力を向上させ、目的意識・規範意識を持ち、希望の進路実現のために主体的に行動できる生徒を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ①教務部が遅刻・欠席者数の数値を分析・評価することで遅刻・欠席者数を減少させる。 ②生徒への働きかけ、教員の情報共有、保護者との連携を密にし、チーム学校で生徒指導にあたる。 ③保健環境部で年度の早い時期にスクールカウンセラー、巡回支援員等を講師とする研修会を実施する。 ④部活動ミーティングや文化部フェスタなどの生徒の活躍の場を設ける。 ⑤「宮高カリキュラム・マネジメント検討チーム」を発足し生徒の進路実現に繋がる教育課程を検討する。 ⑥進路指導部・学年で連携し、学力上位層のための講座を開講する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①遅刻・欠席者数が、前年度の2割減になったか。 ②チーム学校として年間を通して指導を行うことができたか。 ③研修会を実施できたか。不登校等の未然防止に寄与したか。 ④部活動の定着率が高まったか。 ⑤教育目標を実現するための教育課程の編成が進んだか。 ⑥学力上位層のための講座を実施できたか。参加者数を増やすことができたか。 		
3	<ul style="list-style-type: none"> 保護者、地域、関係諸機関等の連携が強化され、地域から感謝される機会が増えている。 地域の人々の理解・協力を得ながら、ボランティア活動を推進し、生徒の活動をポートフォリオとして蓄積していく必要がある。 目的意識を持って受検する志願者が増えて、生徒募集も安定してきているが安心はできない。 生徒会、部活動等におけるよい評判や生徒の活躍を情報発信し、小・中学校からの信頼を得て安定的な生徒募集につなげていく。 保護者・地域への定期的な情報伝達により、保護者・地域からの理解・協力を得る。 	保護者、地域、関係諸機関との連携を密にし、地域社会における体験的な活動への参加を促進するとともに本校の良さを積極的にアピールし、生徒募集につなげる。	<ul style="list-style-type: none"> ①宮代町の小学校4校・中学校3校、宮代町教委、関係諸機関と学習指導等で連携を強化する。 ②生徒会、委員会、部活動でボランティア活動等に積極的に参加する。 ③中高連携委員会で生徒会、部活動の生徒を動かし、生徒の活躍が見られる学校説明会、広報活動を実施する。 ④学校の情報をHPや「宮高だより」で積極的に発信する。 ⑤5年次研修や「質の高い学校教育の推進事業」を活用し、近隣の小・中・高等学校・特別支援学校と共に学び合う研修会の機会を作る。 ⑥保護者の各種学校行事・PTA行事への参加案内を積極的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ①連携した取組が実施できたか。 ②ボランティア活動が増えたか。参加者数が、前年度より増加したか。 ③学校説明会等の参加者数が前年度を上回ったか。本校志願者の9割以上が学校説明会に参加したか。 ④HPのアクセス数が増加したか。 ⑤近隣の小・中・高等学校・特別支援学校と情報共有ができたか。 ⑥行事に参加する保護者数が増えたか。保護者アンケートで高評価を得たか。 		

学校関係者評価
実施日 平成 年 月 日
学校関係者からの意見・要望・評価等